年間授業計画　新様式例

高等学校 令和６年度（２年次用） 教科　　芸術　　科目　音楽Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　音楽Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象年次組：第　　2 年次　　1 組～　　3 組

教科担当者：　　（1～３組：山岸）

使用教科書：　（　教育芸術社　MOUSA　1　　）

教科　芸術　　の目標：

【知識及び技能】　音楽と文化的・歴史的背景の関わりについて学び、その多様性について理解を深める。音楽表現のために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表現している。

【思考力、判断力、表現力等】　音楽を形づくる要素や、要素同士の関連を知覚し、それらを音楽表現にする際に意図をもったり、聴いたときに適切に言語化するなどしている。

【学びに向かう力、人間性等】　音楽や音楽文化と豊かに関わり、主体的に表現し、協働的な態度で学習に取り組もうとしている。

科目　音楽Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
音楽の持つ構造や、曲想と文化的、歴史的背景の関連性を学習し、音楽の多様性を理解する。歌唱、器楽、創作において表現するための技能を身につける。	自己の創意工夫によって豊かな音楽表現をできるようになる。また、音楽の多様な表現と特徴を理解し、美しさや面白さを味わって聴くことができるようになる。	音楽の幅広い活動を通して、主体的に表現に取り組む態度を養う。また、他者の表現を尊重し、受け入れ、互いに認められるようになる。音楽によって、生活や社会を豊かにしていく心を持つ。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 歌	表現 器	表現 創	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	A 単元　歌唱表現 校歌習得。教科書掲載曲を歌う 【知識及び技能】歌詞の意味を理解し、日本語を伝えられるような発音、発声の技術について学ぶ. 【思考力、判断力、表現力等】曲想や音楽の特徴を理解し、表現するのにふさわしい声を考えている。 【学びに向かう力、人間性等】自分の声と身体に注意を向け、しっかりした発声を身につける.	・校歌、および歌集、教科書掲載曲を歌う。 ・発声練習を行い、身体の使い方や母音の口の開け方、子音の発音の注意点を学ぶ。 ・声変わりや自分の今の声域について知る。	○			○	・曲想と音楽の構造、歌詞の意味内容を理解して歌っている。（知） ・曲にふさわしい発声を理解し、工夫して歌っている。（思） ・咽喉、胸郭、腹部など、身体の使い方を意識し、発声を行っている。（態）	○	○	○	8
	B 単元　楽典（拍子とリズム） 【知識及び技能】楽譜の基礎知識を学ぶ。拍子、リズムについて譜の基礎事項を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】様々な音楽を聴取し、身体を使ったリズム活動などを関連させて基本的なリズムの記譜法を学習する。 【学びに向かう力、人間性等】様々な音楽の基本拍を聴き分けることで、多くのスタイルの音楽を知り、それらを楽しみながら音楽活動を行う。	・4分の4拍子の捉え方 ・音符の種類と基本拍	○	○	○	○	・五線譜の基礎的なシステムを理解している。（知） ・様々な曲を聴きながらリズム活動をする中で、音符の長さなどを捉え、楽譜と結びつけることができる。（思） ・様々な曲を楽しみながら、学習と音楽活動を結び合わせて関心を持つことが出来る（態）	○	○	○	8
	C 単元　キーボード（器楽） 【知識及び技能】　五線譜の意味を理解し、キーボードの構造を学習する。 【思考力、判断力、表現力等】指使いなどの奏法を楽譜に関連させて考え、練習することができるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】既知の曲を使い、学習したことで目論見形成をさせ、練習を工夫できるようになる。	・キーボードの構造 ・指使い ・五線と音高 ・リズムの記譜		○		○	・リズムと合わせて五線譜の音高を理解している。（知） ・指使いを考えながら、キーボードでメロディを弾けるようになる。（思） ・キーボード奏法や楽譜の学習したことを合わせて練習を自主的に楽しんで行うことができる。（態）	○	○	○	10
	D 単元　ポピュラー音楽 【知識及び技能】ロックやヒップホップなど、現在の世界のポップスについて、歴史や音楽の特徴などを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】ポピュラー音楽とはどのような成り立ちで出来たものなのかを知り、現代の多様な音楽の在り方を考えながら鑑賞している。 【学びに向かう力、人間性等】自分の個人的な音楽経験と照らし合わせ、その音楽の歴史や成立を知ることで、新たな視座を持ち考えることができる。	・ロックの起源や特徴について ・ブルースやジャズの歴史や成立について ・ほかの多様なポピュラー音楽の特徴、成立、社会的影響力など学ぶ	○	○		○	・様々な音楽の歴史的成立や特徴などを、自らの関心からインターネットや教科書を用い、調べることができる。（知）（態） ・音楽的特徴がどのようなものなのか、リズム活動や歌唱活動を通じて、考えを深めることができる。（表） ・様々な着眼点を得て、曲や演奏に対する評価を根拠を示しながら行うことができる（思）	○	○	○	6
2学期	E 単元　ギター基礎（器楽） 【知識及び技能】ギターの構造を習得する。タブ、コードの基礎を学習する。 【思考力、判断力、表現力等】アポヤンド奏法、ストローク奏法を習得し、それぞれの曲に応じた表現を工夫できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】既知の曲を使い、学習したことを主体的に関連させ、練習を行う。	・ギターの構造について ・指使い、ピックの用い方 ・タブ譜とコードについて ・基本奏法を学習	○	○		○	・ギターの基本事項を習得することで、体系立てた練習を目論見立て、目的にそって実行することができる。（知）（表）（態） ・曲想に合った弾き方、歌い方を工夫し、ふさわしく表現している。（表）（思）	○	○	○	8
	F 単元　民族音楽 【知識及び技能】様々な民族音楽を見たり聴いたりすることで、その特徴を見取り、聞き分けることができるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】特徴的リズムや音階、また楽器や舞踊などを学習し、自ら表現活動をすることで、より包括的に音楽を理解している。 【学びに向かう力、人間性等】民族音楽の良さや特徴を感じ取り、それらの意味や価値を考えている。	・リズム楽器習得、演奏 ・民族楽器の演奏法について ・舞踊や楽器を鑑賞		○	○	○	・民族的な音楽を知ることでその歴史的価値を学び、面白さ、美しさを 感じ取ることができる。（知）（態） ・ギターの学習と合わせて、民族的な楽器としてのギターと、ポップスで使用される時の音楽的要素や役回りの違いなどを考え、適切に評価することが出来る。（思）	○	○	○	10
	G 単元　ギター応用（器楽） 【知識及び技能】ギター基礎で学んだことを活かし、コードを弾きながら歌うことで、より音楽を包括的に感じ取り、表現する。 【思考力、判断力、表現力等】既知の曲をより自分らしい表現となるよう、発声や音楽スタイルを工夫して表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】今までに得た演奏知識を使い、より豊かな表現ができるよう練習している。また、クラスのメンバーと協力しあって練習している。	・弾き語りで表現する ・テンポ感、ストロークによるビートの表現 ・音楽にふさわしい声を工夫する	○	○			・ギター弾き語りによって、より包括的に音楽の諸要素を感じ取り、それらがどのように関連し合っているか、理解している。（知） ・曲がどのような音楽的内容によって成立し、音楽になっているかを理解し、諸要素を自分で表現している。（思） ・一曲の練習にあたり、どのように練習するか、目論見を形成して主体的に取り組んでいる。（態）	○	○	○	8
	H 単元　日本伝統音楽 【知識及び技能】箏の構造や奏法を知り、実際に試しながら演奏する。 【思考力、判断力、表現力等】伝統芸能や舞台の鑑賞によって、それぞれの特徴や歴史的な成立、関わりを学習し、表現される内容を理解する。 【主体的に学習に取り組む態度】音楽上の特徴などを見取り、聴き取ることで新たな発見を得、社会の中での価値を理解する。	・地域の伝統音楽について ・日本の伝統的な舞台芸能について（能楽、歌舞伎など） ・和楽器　箏	○	○	○	○	・箏はどのように調弦するか。奏法など学び、実際に弾くことで工夫して音楽にしている。即興的な前奏を創作し、美しさを味わっている（知）（思） ・伝統芸能の舞台表現を知り、その面白みや工夫について発見を楽しみ、それを文章に主観、客観を織り交ぜながらに書くことができる。（思） ・伝統芸能の良さを自分なりに発見し、社会的な価値を考えることができる。（態）	○	○	○	4
3学期	I 単元　作曲（作品創作） 【知識及び技能】音階について学習し、雰囲気を有した歌を創作する。 【思考力、判断力、表現力等】歌詞のもつイメージと音階の雰囲気を合致させ、リズムや構成を工夫した音楽にする。また、それを書き残す。 【主体的に学習に取り組む態度】詩を味わう、音階の響きを聴き取るなどして、表現の手がかりを想像力を使って模索している。	・五音音階、わらべうたの音階、沖縄音階などを学習する。 ・詩を選び、音階を使った歌を創作する。	○	○	○		・音階の特徴や雰囲気を理解している。 ・音楽上の導入部や盛り上がる部分など、構成を考え、作品に活かそうとしている。（知） ・楽器を弾く、自分で歌うなど工夫を重ね、一つのまとまりを感じ取れる 音楽に仕上げている。（思・表） ・他者に聴かせることができ、かつ、自分でも記譜を工夫している。（態）	○	○	○	10
	J 単元　社会と音楽 【知識・技能】社会の中の音楽として、著作権法、適切な批評のあり方についてなど、マナーやインターネットリテラシーを学習する 【思考・判断・表現等】自分の好きな音楽を他者に伝えるなど、批評的文章を作成するにあたり、表現を適切に行えるようになる。 【主体的に学習に取り組む態度】現在の自分自身の知識や考えを整理し、「発信する」という役回りを担うことの意義を考える。	・著作権、批評活動について学習する。 ・様々なSNSなど通じて発信者となるという自覚のもと、どのように音楽を使ったら良いか、主体的に考える。				○	・自分自身のインターネットに対する知見と合わせて、著作権法や 情報発信の在り方現在と未来的な視点を合わせて考えている（思）（知） ・これからの社会で、発信する在り方はどのようなものがあるかを考え、『適切に音楽を使用するとは』など考察している。（態）	○	○	○	6 合計 78